

京都大学文学研究科博士後期課程修了生アンケート集計結果

令和2年3月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・終了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。後期課程修了生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

今年度は博士後期課程修了生45名に対して、39名より回答を得ることができ、回答率は86.7%に達した。全学の修了式が中止になったにも関わらず回答を寄せてくれた修了生諸氏に、あらためて感謝したい。(なお、提出期限終了後に1件の回答があったが、全学のシステムの都合上、この1件については期限内に行われた回答とデータを統合できないとのことであるため、以下の叙述の元となったデータにこの1件分は含まれていない。)

回答結果の傾向は、大筋では例年と変わらない。Q.05「あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？」では、約86%の方が「充分」または「それなり」に満足していると回答しており、文学研究科博士後期課程の大学院教育に対する満足度が高いことが窺われる。ただし、Q.04の「京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えますか？」について、自学自習の能力が「充分」または「ある程度」養われるような形で行われていると回答したのが約66%と学部卒業生や修士課程修了者の回答よりも低くなったことは、やや気懸かりである。

Q.07「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものはありますか？」(複数回答可)という質問に対して、「専門分野の研究能力」(87.2%)、「専門的知識」(84.6%)、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」(69.2%)が高い数字を示したことからは、高度の専門教育を目指す博士後期課程の教育目標が達成されていると多くの修了生が捉えていることが窺われる。「外国語の能力」(41%)の選択率が例年より低くなっていることについては、今後、注視する必要があるように思われる。

文学研究科のディプロマ・ポリシーの達成状況については、Q.09「哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、専門的研究者として自立できる研究能力と、指導的な高度専門職業人としての能力を身につけている」(87.0%)、Q.10「それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている」(87.1%)、Q.11「専門家として責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている」(89.7%)について、いずれも「達成できた」と「ある程度達成できた」が高い数字を示している。Q.12「研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学力を身につけている。」については、「達成できた」と「ある程度達成でき

た」の合計が69%あまりとなっており、修士課程の43%を大きく上回っている。国際的な発信力が身につくのが博士課程の段階であるという状況は、変化していない。

【自由記述欄】

自由記述はそれほど多くはないが、博士後期課程修了後の進路や身分に関する記述が顕著に増加した。学振特別研究員の応募資格の変更などが影響していると考えられる。部局として独自に対応できる範囲は限られるとはいえ、研究者養成をめざす研究科が直面している課題として留意する必要があるだろう。

アンケート名 令和元（2019）年度博士後期課程修了者アンケート

部局 文学研究科

対象者数 45

回答者数 39

回答率 86.7

結果 (Q.01) あなたが修士課程を終えた大学についてお聞きします。

- A: 京都大学大学院文学研究科 (37票/94.9%)
- B: 京都大学の他研究科 (1票/2.6%)
- C: 京都大学以外の日本国内の大学 (0票/0%)
- D: 日本以外の大学 (1票/2.6%)
- E: その他 (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



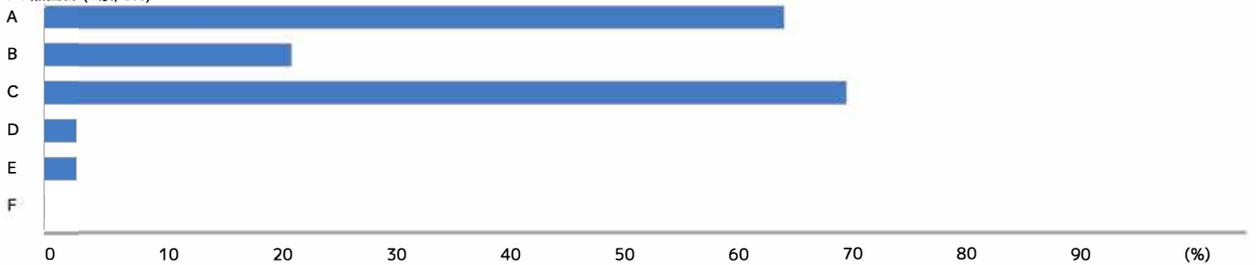
(Q.02) あなたが博士後期課程で学ぶことを決めたのはいつ頃でしたか？

- A: 学部入学後 (11票/28.2%)
- B: 4回生になってから (5票/12.8%)
- C: 修士課程進学後 (16票/41%)
- D: 修士論文作成中 (4票/10.3%)
- E: 修士課程修了後、社会に出てから (1票/2.6%)
- F: その他 (1票/2.6%)
- G: 無回答 (1票/2.6%)



(Q.03) 博士後期課程で学ぶ動機のなかで重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）

- A: 修士課程で選んだテーマの研究をより深めたいと思った。(24票/61.5%)
- B: 博士後期課程での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。(8票/20.5%)
- C: 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。(26票/66.7%)
- D: 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。(1票/2.6%)
- E: その他 (1票/2.6%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としていますこれに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えますか？

- A: 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。(13票/33.3%)
- B: 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。(13票/33.3%)
- C: どちらとも言えない。(9票/23.1%)
- D: 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。(2票/5.1%)
- E: その他 (1票/2.6%)
- F: 無回答 (1票/2.6%)



(Q.05) あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？

- A: 十分に満足している。(14票/35.9%)
- B: それなりに満足している。(20票/51.3%)
- C: どちらとも言えない。(4票/10.3%)
- D: 後悔している。(1票/2.6%)
- E: その他 (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)

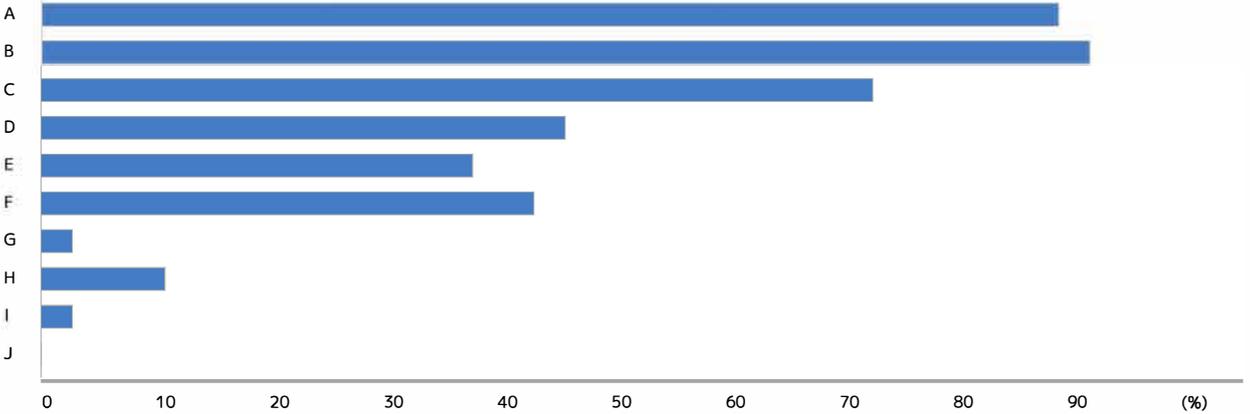


- (Q.06) 4月以降の進路についてお聞きします。
- A: 大学・研究所等の研究（教育）機関に就職 (13票/33.3%)
 - B: 一般企業に就職 (2票/5.1%)
 - C: 官庁、地方自治体等に就職 (2票/5.1%)
 - D: 教員、司書等の専門職に就職 (0票/0%)
 - E: 日本学術振興会特別研究員 (2票/5.1%)
 - F: 研修員 (3票/7.7%)
 - G: その他 (1票/2.6%)
 - H: 無回答 (16票/41%)



(Q.07) 文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。（複数回答可）

- A: 専門的知識 (33票/84.6%)
- B: 専門分野の研究能力 (34票/87.2%)
- C: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (27票/69.2%)
- D: 一般的な教養 (17票/43.6%)
- E: 国際感覚 (14票/35.9%)
- F: 外国語の能力 (16票/41%)
- G: リーダーシップ (1票/2.6%)
- H: 社会的常識 (4票/10.3%)
- I: その他 (1票/2.6%)
- J: 無回答 (0票/0%)



(Q.08) 差し支えなければ、あなたが属していた専攻を教えてください。

- A: 東洋文献文化学 (3票/7.7%)
- B: 西洋文献文化学 (5票/12.8%)
- C: 思想文化学 (10票/25.6%)
- D: 歴史文化学 (9票/23.1%)
- E: 行動文化学 (6票/15.4%)
- F: 現代文化学 (3票/7.7%)
- G: 無回答 (3票/7.7%)



(Q.09) 以下、Q.09からQ.12で、文学研究科のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えて下さい。

哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、専門的研究者として自立できる研究能力と、指導的な高度専門職業人としての能力を身につけている。

- A: 達成できた (4票/10.3%)
- B: ある程度達成できた (26票/66.7%)
- C: どちらとも言えない (8票/20.5%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (1票/2.6%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.10) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の高度な分析に基づいてオリジナリティの高い研究を進めるとともに、研究の成果と学術的意義を適切に把握する能力を身につけている。

- A: 達成できた (13票/33.3%)
- B: ある程度達成できた (21票/53.8%)
- C: どちらとも言えない (4票/10.3%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (1票/2.6%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.11) 専門家としての強い責任感と高い倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。

- A: 達成できた (19票/48.7%)
- B: ある程度達成できた (16票/41%)
- C: どちらとも言えない (3票/7.7%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (1票/2.6%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.12) 研究成果を世界に向けて積極的に発信するとともに、国際的な連携のもとで研究を推進する能力を身につけている。

- A: 達成できた (9票/23.1%)
- B: ある程度達成できた (18票/46.2%)
- C: どちらとも言えない (7票/17.9%)
- D: あまり達成できなかった (4票/10.3%)
- E: 達成できなかった (1票/2.6%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.13) その他意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。